

令和5年度中長期計画評価表

中長期計画推進に関する方針には次のように定めている。

「検証活動は、基本分野1と基本分野2は教務委員会で行い、基本分野3と基本分野4は総務委員会で行う。全体としての責任は総務委員会がもち、内部質保証推進部会での検証をリードして、計画の実行性を確保する。」

() は行動項目 【 】 は三つのポリシーに直接かかわること

評価 (◎) …重点的に実施 (○) …実施 (△) …不十分

※…実施の概要（重点的に実施したところはその概要を記す

以下に、令和5年度実施の中長期計画について、各行動目標を振り返り、評価を行った。

基準分野1. 教育研究…教務委員会

(1) 教育課程の体系的な編成

- (◎) 生涯学習社会の実現のため、生涯を通して学び続けて社会の変化がさらに激しくなる時代を生き抜く意欲をもった人材を育成している。
※ 資格などを取得して修了する学生だけでなく、学位を取得して卒業する学生が増加した。
 - (○) 知識基盤社会をたくましく、しなやかに生き抜くことのできる生涯学習者・生涯学習支援者を育成するカリキュラムを編成している。
 - 【◎】 ディプロマ・ポリシーに基づいた評価指標を明確にして、科目ごとの成績評価への厳正な適用を図っている。
※ 教員を対象としたディプロマ・ポリシーと担当科目の関連性に関するアンケートを実施し、改めてディプロマ・ポリシーの周知徹底を図った。
 - 【○】 カリキュラム・ポリシーに基づいた体系的な教育課程の編成を目指して、科目の開設と見直しを進めている。
 - (○) 実践的なプレゼンテーション能力、ディスカッション能力を培う演習科目など、課題発見・解決力や豊かな人間性の醸成に資する科目群を開設している。
 - (△) 学生や卒業生の視点を育成に反映させるためのアンケートを実施して、科目の新設に役立てている。
 - (◎) 国家資格取得などの学びを通じて地域の活性化に貢献する人材を育成している。
※ 司書、学芸員、社会教育主事などの資格を取得した学生を継続して輩出している。
- (2) 教員の能力開発と教授方法の工夫・開発
- (△) eラーニングシステムの特徴を生かしたアクティブラーニングを具現化する

教育方法などの教授法を開発して拡充している。

- (△) eラーニングシステムの機能が多様なインターネット環境に応じて最適化されている。
- (○) FD(Faculty Development)研修を実施して意見交換を行ない、eラーニングシステムを教育指導に活かすための能力の開発を図っている。
- (○) 教員同士の交流の機会を作って、教育・研究の経験と問題意識を共有している。
- (△) グローバル化の進展により多様となったインターネット環境に対応できる学びのスタイルを提供している。
- (△) 国内のどこからでも教員が配信し、学生が受講できるeラーニングシステムを整備している。

※※ コロナ禍での対応として教員の自宅からのスクーリング授業の配信を認め、教室以外の場所からの配信を実施したが、令和6年度以降は、教室からの配信の体制へ戻したため、計画から削除するなどの検討を要する。

(3) 研究活動支援

- (○) 外部資金の公募情報を収集して提供し、応募を促進している。
- (△) 外部資金の応募にあたって申請書類の作成を支援する体制を整備している。
- (○) 図書館や研究室など教育・研究を行なうための設備の充実を推進している。
- (◎) 学術情報リポジトリを構築し、研究成果の活用を促進している。
 - ※ 過去の紀要の研究論文等も掲載して公開し、学術情報リポジトリへのアクセス数、ダウンロード数が増加している。
- (○) 適切な研究時間の確保を図るため、教育・研究以外の教員業務の効率化をさらに推進している。

基準分野2. 学生の受け入れ・学生支援…教務委員会

(1) 学生の受け入れ

- 【◎】 アドミッション・ポリシーに基づいて、多様な学生の受け入れを推進している。
 - ※ アドミッション・ポリシーに基づいた合否審査体制の見直しを実施した。
- (◎) 特別な配慮を必要として入学を希望する人に対して入学支援相談の体制を整備している。
 - ※ 大学のウェブサイト上で、修学上の配慮を要する入学検討者向けの案内を改善した。
- (○) eラーニングシステムの機能を生かして、世界中どこからでも学べる環境を整備している。
- (△) 入学検討者向けの模擬授業、オープンキャンパス、各種 SNS(Social

Networking Service)を活用した広報など多様な学生を受け入れるための取組を実施している。

(2) 学修支援体制の整備

- (○) 学生の一人ひとりが自分の社会生活と両立して学び続けていけるように学修支援体制を整備している。
- (◎) アカデミック・スキル関連科目の整備を通じて学修の促進を図っている。
※ アカデミック・スキル関連科目の整備に継続して取り組んだ。(初年次セミナーの開講日程を増やした。レポートの書き方入門をレポートの書き方入門Ⅰとレポートの書き方入門Ⅱの2科目に拡充した。アカデミック・スキル関連科目を担当する専任教員を公募した。)
- (○) 自然災害などの非常事態を想定して、学修の継続を図るための学修支援体制の整備を検討している。
- (○) SD(Staff Development)研修・FD研修などの実施を通じて、教職員が教育の理念や学内外の問題・課題を共有し、一体となって学修支援に取り組んでいる。
- (○) 学生同士の交流を促し、豊かな人間性の醸成に資する仕組みを整備している。
- (◎) eラーニングシステムの機能を生かして、障害学生支援を実施している。
※ 修学上の配慮を要する学生に対し、eラーニングシステムの運用を工夫して、試験時間の延長などを実施した。
- (△) 中途退学などの防止につながる取組を行っている。
- (◎) 学生のニーズに沿った多様な方法により授業を開講している。
※ 夏期の集中スクーリングの開講日を増やした。
※ 令和6年より図書館概論(S)を新規開講し、司書資格取得希望者のニーズに対応した。
※ 図書館概論のほか、生涯学習論、刑法総論など、同じ科目でテキスト履修科目とスクーリング履修科目の両方を同時開講した。

(3) キャリア形成と就職支援

- (○) 社会の変化に応じて学生のキャリア形成や就職・転職活動を支援する体制の充実を図っている。
- (○) 学生のキャリア形成や就職・転職活動に役立つような科目群を整備している。
- (△) 卒業生を対象とした勉強会や交流会の開催など、卒業や資格取得後をフォローする仕組みを整備している。

基準分野3. 大学運営…総務委員会

(1) 運営体制の整備

- (◎) 大学を取り巻く環境変化に応じて組織を柔軟に改編しながら、学長をはじめとする委員会、教授会等の役割と責任を明確にし、ガバナンスの強化を推進

している。

※学長を補佐する「学長ミーティング」という会議を創設し、ガバナンスの強化を推進した。

- (◎) 教職員の提案などを各委員会、教授会等がくみ上げ、教職員の意思疎通と連携を適切に行い運営している。

※ハラスメントアンケートで教員からテキスト履修の添削について大学としての指針を示してほしいとの要望があり、それに対して、課題発見解決学習をとり入れた添削方法を提示した。

- (◎) 中長期的な管理運営体制の視点に基づき有用な人材を計画的に確保するとともに、SDをはじめとする研修等により管理運営にかかわる教職員の人材育成をしている。

※SD研修で、個人研修の交流会を開催し、「学生の主体性を促すためにできること」をテーマに、これまで培った知見を新採用の教職員に伝えた。

(2) 内部質保証の推進

- (◎) 内部質保証の評価の結果を大学運営の向上のために反映し、PDCAサイクルを機能させている。

※総務委員会・教務委員会・事務局が、年に2回集まって内部質保証推進部会を開催してPDCAサイクルの「P」と「C」を共有したことで、大学全体のPDCAサイクルが機能した。

- (◎) IR (Institutional Research) によるエビデンスに基づく自己点検・評価を定期的に行っている。

※IR推進部会が定期的に会合を開いて学内の内部質保証の動きを観察し、将来への有益なデータを集積した。

- (○) 自己点検・評価の結果を学内で共有し、情報を公開している。

(3) 組織倫理、人権、安全管理の推進

- (◎) 組織の倫理規則・規範の遵守と業務の適正な執行を徹底している。

※各教員が、就業規程、ソーシャルメディア利用ガイドライン及びハラスメント防止ガイドラインを再確認する自己研修を、毎年4月に実施するようになった。

- (○) 研究倫理の遵守を推進している。

- (○) 人権に配慮した職場環境を促進している。

- (○) 発災時の事業継続体制の構築などによる危機管理対策をしている。

- (○) eラーニングシステムの安定的な稼働と情報セキュリティの強化を図っている。

基準分野4. 社会連携・社会貢献…総務委員会

(1) 生涯学習社会の実現

- (○) 地方自治体の生涯学習プログラムとの連携を進めている。

- (○) 企業等と連携・協働する体制を強化し、職業人向けリカレント教育の充実を図っている。
- (○) 生涯学習機関として社会の多様なニーズに応える公開講座を展開している。
- (2) 社会貢献活動の推進
 - (◎) 教育・研究の成果や施設・設備を活用して広く社会や地域に貢献することを推進している。
 - ※公開講座「防災士養成講座」「心のサポーター ゲートキーパー養成講座」等を開催し、地域社会に貢献した。また、附属図書館の開放を行った。
 - (◎) 学生や教職員、卒業生等が行っている教育・研究の成果を社会や地域に還元する活動、またその他のボランティア活動等についての情報交換・発信を大学として推進している。
 - ※「コロナウィルスストレスマネジメント講座」を開催した。
 - (○) eラーニングシステムの機能を活かして公開講座の充実を図っている。

以上が、令和5年度八洲学園大学中長期計画の実施結果であった。

10年計画の第1年次であった。

次年度は重点的に取り組むことを、計画的に実施したい。